

5 国際サマーキャンプ

平成18年8月21日～24日

1 ねらいとその達成状況

事業項目・区分 (現代的課題等)	国際交流・異文化理解事業 学校教育関係者(教員)を対象にした研修事業		
事業のねらい (学習要求や必要課題等)	群馬県の県立高校生を対象に、国際化に対応したプログラムを体験する宿泊研修を実施し、参加者同士やAssistant Language Teacher(以下、A.L.T.)との交流を深め異文化理解・国際理解教育の推進を図る。		
ねらいの達成状況 (参加者の変容等)	親密に交流したA.L.T.の人柄を通じて、英語だけでなく、外国人と日本人の接し方や考え方の違いを学ぶなど、異文化理解・国際理解が図れた。また、英語を使って集団活動をするすることで、積極的に人にものを伝えることの大切さを実感するなど意欲の向上が図れた。		
参加者のアンケート 結果(満足度)	事業全体 運営	98% 100%	プログラム 職員の指導・助言 97% 97%

2 企画・立案

事業の必要性 (理由・背景等)	健全な青年の育成を図るための課題の一つである国際理解教育を推進するために、異文化理解及び国際交流を促進する必要がある。また、地元群馬県教育委員会との連携の下、共催事業として進めてきた経緯があり、その継続が望まれていた。		
ニーズの把握状況	群馬県教育委員会を通じて、群馬県内の各高等学校と連携し、プログラムの内容についてニーズを把握した。		
ねらいとプログラムの関係	英会話での活動をベースにしつつ、A.L.T.の発表を聞く、質問に仲間と協力して答える、情報を聞き出す、一緒に寸劇や出し物を作るなどの活動を織りまぜた。		
主なプログラム (タイムテーブル)	第1日		
	時 間	プログラム	活動内容概略
	14:00～15:00	入所式	
	15:30～17:30	研修	グループ活動、A.L.T.へのインタビュー
	19:00～20:30	研修	新任A.L.T.のプレゼンとQ and A
	第2日		
	時 間	プログラム	活動内容概略
	9:00～12:00	研修	CF出し物練習、英語ウォークラリー
	13:30～17:30	研修	英語セミナー、スピーチ練習、CF出し物練習
	19:00～20:30	研修	寸劇作り、スピーチ練習
	第3日		
	時 間	プログラム	活動内容概略
	9:00～12:00	研修	英語セミナー、ディスカッション、A.L.T.へのインタビュー
	13:30～17:20	研修	ゲームトーナメント、英語セミナー、スピーチ練習、CF出し物練習
	18:40～20:30	研修	CF(キャンプファイヤー)
	第4日		
	時 間	プログラム	活動内容概略
9:00～12:00	研修	グループ内スピーチ発表、スピーチコンテスト	
13:30～14:30	研修	表彰、ふりかえり	
14:30～14:50	退所式・解散		
事業の改善点 (継続事業のみ)	2泊3日から3泊4日に延長したことで、活動を発展的に3回繰り返すこと、活動の展開にリズムを付けることが可能となった。		
企画・立案体制(関係機関・講師との連携等)	群馬県教育委員会と共催のため、主担当と副担当及び教育委員会の担当者と連絡を取りながら原案を作成し、企画・立案を進めた。プログラムの内容については、教育委員会を通して講師代わりのA.L.T.との検討を行った。		
募集人数の設定基準	A.L.T.と日本人教師対高校生の人数の比率が1対2程度になるよう募集人数を調整した。		

実施時期の設定理由	募集対象者の4日間の連続参加が可能な夏休み後半に設定した。
-----------	-------------------------------

3 参加状況等

募集人数・募集対象	募集人数：90人 募集対象：群馬県立高等学校生徒及び教員・A.L.T.
参加者数(申込者数)	参加者数：95人(申込98人)
参加者内訳	高校生：64人，教員：12人，A.L.T.：19人
参加地域	設置道県：95人，設置道県以外：0人
広報活動	群馬県教育委員会を通して，すべての県立高等学校に開催要項を配布した。
参加費	7,000円
運営担当者	企画指導専門職：3人 群馬県教育委員会担当：3人

4 事業実施

ねらいの周知・方法 (参加者・講師・職員)	職員には原議書を回覧し，具体的プログラム日程を掲示した。また，「しおり」を作成し，全職員に主担当からねらいを説明した。参加者へは入所式においてねらいを周知徹底した。
参加者の学習状況 (学習内容・方法)	すべて英語で進められるプログラムに対して最初は緊張していたが，慣れていくにしたがって，英語文化圏特有の積極性を発揮する者が増えていった。
日程運営 (スケジュール)	共催する群馬県教育委員会の担当者と本所担当者が協力して運営に当たるほか，各セッションの担当をそれぞれA.L.T.と英語教師のペアで担当していただき，その進行をお願いした。
学習環境 (施設設備・教材資料等)	10グループが活動できる会場を確保した。また，英語によるアクティビティーについては，事前にA.L.T.らの計画に沿って展開できるよう環境や道具などの融通・配慮を最大限行った。
健康・安全対策	英語環境によるストレスが懸念されるため，運営担当者が参加者に声をかけるなどして様子を観察するだけでなく，日本人英語教師にそれぞれ高校生グループの担当をお願いし，健康状態や心理状態の掌握をした。
講師・関係機関等との連携	共催形式の企画運営のため，担当者同士の顔を合わせての打合せをまず実施することで，その後のメールや電話での打合せをスムーズにできるようにした。また，詳細については，こちらから出向いて話し合いができるようにした。

5 事業実施後の評価や普及

参加者の評価 (アンケートの自由記述等から)	「A.L.T.一人に対して生徒の人数が少ないので，たくさんA.L.T.と話せて楽しかったです」など，充実した研修であったことを示す記述が多かった。
講師・関係機関等の評価	日程計画を1日延長したことで，英語によるコミュニケーション能力の向上がこれまで以上に図れたとともに，参加者同士やA.L.T.との交流を深めることができたとの評価を得た。
職員の評価 (企画段階から関わったボラ等を含む)	単なる知識ではなく，A.L.T.の人となりを通じた異文化理解・国際理解を進めることができたこと，また，英語環境の中で友達と協力したり，自分を主張したりする参加者が次第に増えてきたことを実感した。
事業報告の状況	文教ニュース社や官庁通信社を通して事業内容を発信した。WEB上にも事業報告を公開した。また，所内にも報告の掲示をした。
普及実績 (計画・予定を含む)	群馬テレビによる報道があった。
事業後の反応 (参加者・普及先等)	A.L.T.が県内の高校を巡回すると，熱心に授業に参加する生徒の中に，この事業の参加者が必ずといってよいほどいるとの話を聞く。

6 その他の特記事項(成果等)

本事業は，群馬県教育委員会との共催で実施されているものであり，企画立案段階から担当者同士の連絡・協力及び講師代わりのA.L.T.とのプログラムの検討などが事業の成否にかかわる。しかし，群馬県教育委員会は，教育長の意向により，この事業を海外ホームステイの実施に発展させていくことを検討している。共催形式で成り立っている企画事業であるだけに，群馬県教育委員会の方針の決定を待って次の方策を検討すべきであろう。なお，海外ホームステイが廃案になり，これまで同様の事業を実施する場合は，研修支援事業として実施できるよう準備している。
--